



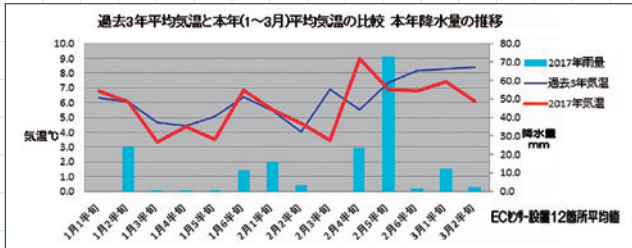
いよいよ一番茶です!  
体調を万全に!

《気温雨量の推移》

三寒四温を繰り返しながら、春の陽気がようやく感じられるようになりました。萌芽の早晩は、1月より2月、2月より**3月の気温が大きく影響**します。県茶業研究センターが3月3日に発表した生育予測によると、現時点における今年の萌芽期は、平年より1〜2日早く、生育が早かった前年より6〜8日遅れているとのこと。今後の気温に注意しながら、「一番茶」の摘採計画を立てましょう。各地域の営農経済センターでは、「一番茶前（3月下旬〜4月中旬）」に生育調査を実施しています。これらの情報も活用しましょう。

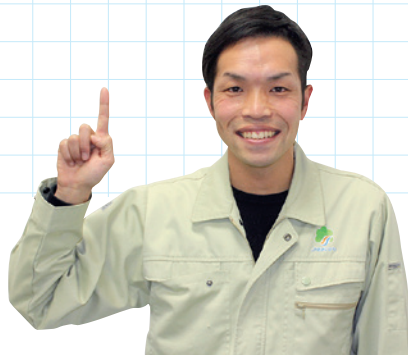
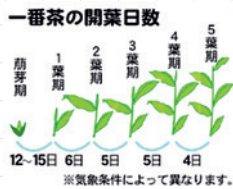
夜半に掛けて急速に晴れ上がる、放射冷却により凍霜害が発生することがあります。今一度防霜施設を点検し、万全を期してください。

《病害虫防除》  
今月は、カンザワハダニ、コミカンアブラムシなどが発生します。特に、昨年から初冬に掛けて気温が高く推移している



ことから、越冬個体数が多くなり、**カンザワハダニは多発傾向**ですので、**注意が必要**です。（多発園は体系防除を！）

《茶園を観察しよう》  
越冬芽は、平均気温が13℃（早生品種は10℃、晩生種では20℃以上）くらいで萌芽します。気温の上昇で越冬芽の包葉が展開して、中の芽が半分以上見えた状態を「萌芽」と言います。茶園全体の70%が萌芽した状態を「萌芽期」と呼び、萌芽を確認してから、5〜6日くらいで萌芽期に入ります。茶園をまわって萌芽をチェックし、その後の進行も細かく記録しながら計画的な摘採作業を行いましょう。



営農指導課  
山本 尚充